

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990500290		
法人名	株式会社ケアメディカル		
事業所名	グループホームほほえみ鹿沼		
所在地	栃木県鹿沼市上南摩195番9		
自己評価作成日	令和3年7月15日	評価結果市町村受理日	令和3年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、近くに運動公園、裏には山があり、散歩に行くと花を摘んできて飾ったり、季節の移り変わりを感じながら、のんびりと暮らしています。一人ひとりできる手伝い等をお願いし、自身の役割を持ちながら生活しています。
現在コロナウイルスの影響で外出が難しく、ご家族に会えない不安を少しでも取り除けるよう、公園などで美味しいものを食べる等、イベントを多く取り入れています。また利用者が育てた野菜と一緒に収穫し、調理して食べるなど家庭的な雰囲気大切にしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市街地から離れた、山のある緑豊かな地域に当事業所は位置している。職員は「入居者の生活向上・個人の役割・地域の人達との交流を深める」という理念を念頭に、利用者が自然を感じ、楽しく過ごせるよう寄り添い、各々の能力に合わせた役割を持って生活できるよう支援している。令和元年の開所以来、地域の自治会長との繋がりを強くし、利用者が地域の一人として暮らせる事業所になっている。家庭的な雰囲気の中で職員は、ラジオ体操やレクリエーションを取り入れた体操などによって、利用者の運動機能の維持向上に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和3年7月29日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者の生活の向上・個人の役割」の理念は日々実践しているが、地域の方達との交流はコロナウイルスの影響もあり行えず。今後はより具体的に話し合い、利用者様と共有する理念を構築したいと思います。	現在、コロナ禍の影響で地域との繋がりを積極的に持てない状況ではあるが、「利用者の生活向上・個人の役割・地域の人達との交流を深める」という理念を念頭におき、利用者ができることを意欲を持って行えるよう、職員はサポートしている。	利用者と共有する事業所としての理念を作りたいという考えがあるので、作成に向けた取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が少しでも外へ出て地域と繋がっていると思えるよう、区長様宅等職員が出掛ける際、一緒に行き、言葉を交わしたりしている。又区長様から野菜を頂いたり、近所の方より野菜作りについての、アドバイスをいただいている。	散歩中の地域の方より野菜作りについての声掛けや、自治会長から野菜の差し入れがある。事業所内のイベントで、たこ焼きを作った時には自治会長宅に届けるなど、コロナ禍ではあるが少ないながらも交流を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の取り組みなど、月1回会報で配り見ていただいておりますが、コロナ自粛のため地域の方達と関わる場がもてず、今は再度交流が取れるようになった時、お役にたてるよう職員の知識や技術のスキルアップのため、認知症の研修を取り入れています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は開催できず、書面での報告となっている。今後は開催できない時でもご家族や地域の方達のご意見をいただくなどして、サービスに活かして行きたいと思っております。	コロナ禍で運営推進会議は書面での報告になっているが、今後は、報告に対する意見やアドバイスをいただきたい旨を伝え、積極的に取り入れていきたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困りごと等は電話にて相談できている。	市の担当者と電話でやりとりしたり、手続きに出向き、協力関係を築くよう努めている。利用者についての報告をしたり、運営推進会議の開催方法を相談するなど、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度身体拘束の研修を行っており、職員も理解し、目では見えないスピーチロック等をしない環境作りに努めているが、玄関の施錠に関しては現在もやっている。	事業所の内部研修の中で、身体拘束をしないケアの研修も行っている。実際の身体の拘束だけでなく、スピーチロックにあたる言葉遣いをしないよう職員と共に取り組んでいる。身体拘束委員の職員が資料を作り、職員皆が共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等で年4回研修の機会を設け理解を深めるようにしている。また職員の働く環境を見直したり、ストレスを溜めない工夫を考えています。		

グループホームほほえみ鹿沼

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の研修がコロナウイルスの影響のため開催されず、今後学べる機会を探したいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学に来ていただいた時、利用開始前に利用契約書や重要事項説明書の説明を行い、分かりづらかった事や疑問点をお聞きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の様子を家族に伝える時に要望などをお聞きし、得た情報はスタッフで共有している。今後は家族に定期的にアンケートを行い、運営に反映させたいと思います。	利用者の体調の変化や、衣類の入れ替え依頼等で家族に電話で連絡したり、広報誌を送付する際、意見や要望を聴きとるように努めている。	事業所では、家族にアンケートを行って要望を聴いていきたい、という意見があるので、実施できるよう取り組むことを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	誰もが意見を出しやすい雰囲気作りを心掛けており、ミーティングでも活発に意見が出されている。	管理者は、日頃から職員と話をしやすい雰囲気作りを心掛けている。ユニットリーダーが中心に話を聴いてまとめ、意見が反映されるようにするなど工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得制度や研修に参加しスキルアップを目指している。職員の誕生日にプレゼントを用意し労う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナウイルスの影響で参加できる研修が少ないため事業所内で研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設と合同で研修を行った。今後相互訪問で他施設の良い所を取り入れ、スタッフのモチベーションアップを図りたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い、利用者と家族の望む生活に近づけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のアセスメントの際ご家族様の不安や要望をお聞きし、安心して任せていただけるよう良好な関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の意向を確認しながら対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も共に生活をしているという意識を持ち一緒に食事をしレクリエーションや行事等も一緒に楽しむ事を心掛けている。又利用者に関わる事で身近な存在になれるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支えられる一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に近況報告や相談をしているが、コロナウイルスの影響により会う事ができず、不安になってしまう利用者には、窓越しでの面会や手紙を書くなど工夫している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は外出や面会が自粛されているため継続できていない。	コロナ禍で思うように面会や外出ができない中で、美容師が2か月に1回事業所を訪れ、身綺麗になることができる楽しみをもつなど、現在の生活での馴染みの人との関係が続くよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係は関りの中でも変化していくので一人ひとりを見て食事の席替えをしたり、レクリエーションの際普段は関りのない人と行動できるよう支援を行っている。		

グループホームほほえみ鹿沼

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や他施設、病院との情報の交換・共有を行っている。退所された家族から現在の状況などを電話で知らせていただけることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	傾聴に努め、ご利用者が日々発する何気ない言葉や表情からも思いをくみ取れるよう努力している。	職員が利用者に寄り添い気付くことが、思いや意向を知るのに大切と考えている。意思の疎通が難しい利用者についても、担当職員を中心に職員で相談しながら顔の表情や様子から、利用者本位に考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から生活歴・環境を聞き、アセスメントシートに記載し、新しく知り得た情報は随時追加し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のケース記録に1日の過ごし方等を記録し、大切な事や心身状態について変わった事は記録に加え、申し送りやミーティングで話し合い共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を行い、本人・家族の意向を確認し、必要に応じて医療機関等の関係者に相談し現状に即した支援ができるよう取り組んでいる。	事業所から電話連絡で家族の意向を確認し、6か月に1度を目安に介護計画を見直している。利用者が複数の医療機関を受診している場合も、毎月のミーティングで情報を共有し、よりよい生活ができるよう支援に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の暮らしの様子や出来事を、ありのままケース記録に記載し、新しい気づきにつなげる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族から希望があった時はなるべく実現できるよう相談しながら取り組んでいる。		

グループホームほほえみ鹿沼

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ自粛のため現在は訪問理容のみ利用しているが利用者は楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に一度委託医の往診を受けている。状況に応じ、かかりつけの専門医を受診される。その際にご利用者様の状態が分かるよう記録を持参している。	事業所の協力医をかかりつけ医にしている場合は月1回往診がある。以前からのかかりつけ医や内科以外の診療科を受診する場合は家族の付き添いを原則としている。受診後の情報を家族から得て、より安心な受診体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が1名で休みの日もある為、申し送り等で伝わるようしている。介護職員は少しの変化でも報告し、体調の変化があれば看護師の指示を仰ぐ。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院中は看護師が定期的に病院へ状態確認の連絡を取り、退院時・退院後も情報交換、相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は行っていないが、重度化、終末期の対応については研修などで知識を高めた。またそうなった時は、本人、家族の意向に沿った支援ができるよう、準備をしていきたい。	重度化した場合は緊急搬送としているが、具体的に終末期のあり方についての準備が整っていない。職員の研修も含め、体制を整えていきたいと考えている。	終末期、重度化の対応についての法人の考えを、事業所として実施していくために、マニュアルの作成、職員の研修等、準備を進めることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時の研修を行っている。また、利用者一人ひとり考えられる、病状の悪化に対応できるようミーティングで話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を昼夜想定して行っているが、前回の台風時、慌ててしまった経験から、現在は細かな所まで、確認し全員が把握出来る様にしている。	年2回避難訓練を実施しており、1回は消防署立会いで行っている。台風で水害が迫った際、早めの避難ができなかった経験を活かし、高い位置にある同じ法人の事業所への避難を今後の課題としている。備蓄は整えている。	台風時の水害を経験した職員を中心に避難について話し合い、災害について意識付けをすること、地域との災害についての協力体制を築くことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	忙しい時等、強い口調になってしまう事もあるが、自尊心を傷つけないよう、ゆっくり柔らかな言葉で接するようにしている。	できるだけ利用者のプライバシーに配慮し、尊重した声掛けをするよう努めている。入浴時には中から鍵をかけ、気付かずに他の利用者が戸を開けてしまうのを防いでいる。個人の書類は個別にファイルして管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴に努めている。また、自己決定できる環境や促しを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活が職員主体で、時間で進むようになってしまう事もあるが、利用者のペースに合わせた支援ができるようにしたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝髪をとかしたり、髭を剃ったり容姿を整えるよう支援している。服装に関しては、家族が用意してくれたものを選んで着ているが、介助の利用者はいつも同じ服になってしまう事あるため配慮をしていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在はアクリル板を使用し職員も一緒に食事をしている。メニューや食材について、話をし興味を持っていただけるよう、また、片付けを手伝って下さるが、利用者がいつも決まってしまう。	食材の宅配業者を使い、行事食も取り入れている。選んだ献立以外にも、差し入れの野菜や季節の食べ物を調理し提供している。できる利用者には食材を洗ったり切ったりする作業やテーブル拭きに参加してもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できるだけ自己摂取できるよう食器や食事形態を工夫している。水分量、食事はチェックし体調管理に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの研修に参加したり、訪問歯科でアドバイスをいただきながら、一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。		

グループホームほほえみ鹿沼

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンにより、必要に応じて声掛け誘導を行っている。早めの声掛けや促して、トイレでの自立に向けた支援を行っている。	排泄チェックシートを活用しながらトイレでの排泄を促したり声掛け誘導したりしている。各利用者の身体状況に合わせてオムツ、リハビリパンツ、パットを適切に使い、自立した排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝起床後、白湯を飲んで頂く。乳製品の提供。腹部マッサージ・運動等で自然排便ができるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間、曜日は決まっているが、足浴をしたり、皮膚トラブルがない利用者にはバスクリンを使用しリラックスして入浴できるよう工夫している。	週2回、午前中を中心に一日3名の入浴ができるよう支援している。入浴拒否の利用者にも声掛けの職員やタイミングを替えるなどしてスムーズに入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中利用者の状態を見て休息を入れたり、適度な運動で安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり薬表を作成しており、何に対しての薬か、効能・効果、用量など分かりやすくしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持つことで意欲ある生活が送れるよう、利用者一人ひとりに合って無理なくできることを手伝っていただく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望にそえてはいないが、なるべく公園等外出する機会を多く取り入れている。コロナの流行が落ち着いたら家族と出掛けられるよう、話し合っている。	主に事業所近辺を、草花を摘みながら15分程度散歩する他、少人数でジェラートを食べにドライブに出たりすることもある。毎日は散歩できなくても日光浴することで気分転換を図っている。	

グループホームほほえみ鹿沼

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を支払い、物を買う喜びができるよう、施設内で駄菓子屋を開催した。今後お店に買い物に出掛けられるよう支援したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の思いを手紙に書いて家族がみえたとき、渡したり、郵送している。電話を持っている利用者もいるが、使い方についてトラブルもあり配慮が必要である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者で作ったカレンダーや飾りで季節感をだし見て楽しめる工夫をしている。	明るいリビングルームに、食事や各作業ができるよう、ゆったりと間隔をとったテーブルを配置している。利用者が手作りした大きなクラフトの作品を壁に掛けたり、季節に合わせた飾りを施すなど、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では利用者同士おしゃべりやゲームをして過ごされ、一人で過ごされたいときは自室で本を読んだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室に家族の写真を飾ったり、利用者が昔描いた絵を飾ったり、自宅で使っていた思い出の物を持ってこられるなど、居心地よく過ごされるよう工夫している。	エアコン、洗面台、カーテン、ベッド、キャビネットを設置している。利用者が各々の好みに応じて品を持ち込み、過ごしやすい部屋作りができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく利用者が自立して出来る事が多くなるよう工夫し、危険については、その都度職員間で検討し改善している。		